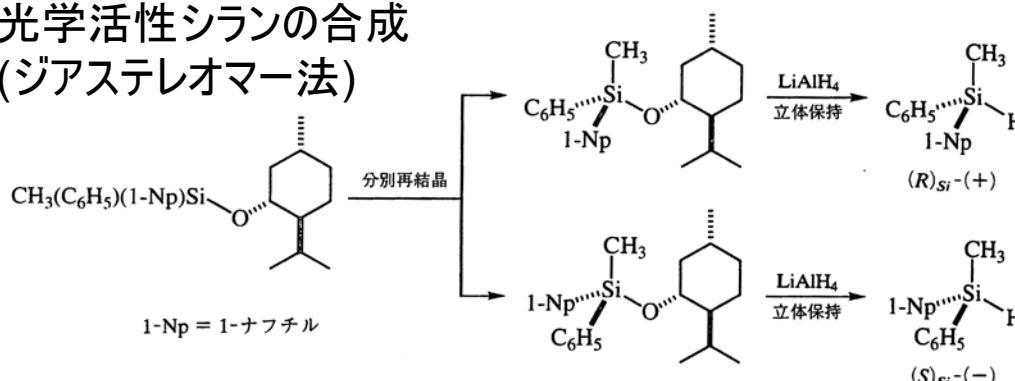


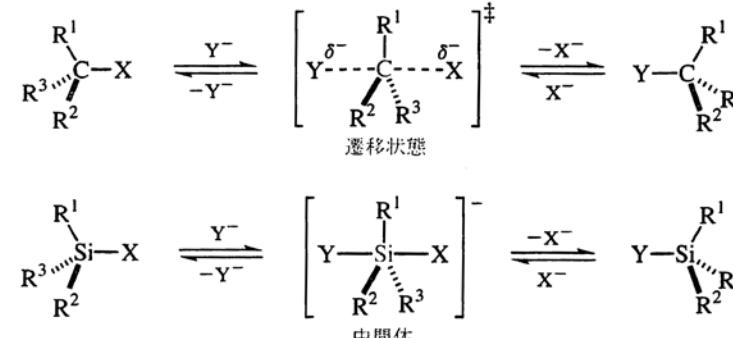
有機14族元素化合物の性質：置換反応

光学活性シランの合成
(ジアステレオマー法)



4配位14族元素(Si,Ge,Sn)化合物は四面体構造をとる

炭素およびケイ素上の置換反応



炭素:5配位構造は遷移状態→

ケイ素:5配位構造は中間体→

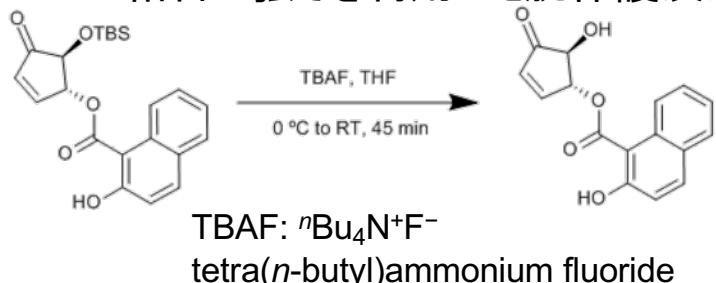
(第1回資料参照)

ケイ素と炭素の各種結合解離エネルギー

表 8・7 ケイ素と炭素の各種結合解離エネルギー D の比較

ケイ素化合物		炭素化合物	
結 合	$D, \text{kJ mol}^{-1}$	結 合	$D, \text{kJ mol}^{-1}$
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{H}$	378	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{H}$	387
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{Cl}$	473	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{Cl}$	335
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{Br}$	402	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{Br}$	268
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{I}$	322	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{I}$	213
$\text{F}_3\text{Si}-\text{F}$	669	$\text{F}_3\text{C}-\text{F}$	544
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{OH}$	536	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{OH}$	381
$(\text{CH}_3)_3\text{Si}-\text{NHCH}_3$	418	$(\text{CH}_3)_3\text{C}-\text{NHCH}_3$	335

Si-F結合の強さを利用した脱保護反応

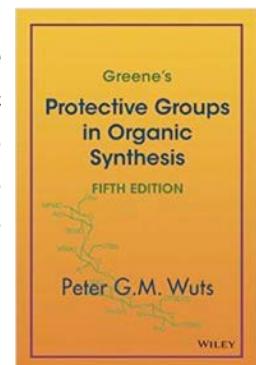


Acc. Chem. Res. 1981, 14, 246.

Greene's Protective Groups in Organic Synthesis
P. G. M. Wuts

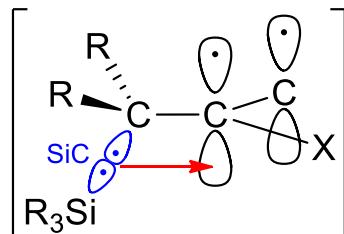
John Wiley & Sons, 2014
ISBN: 1118057481

J. Am. Chem. Soc. 2005, 127, 2050.

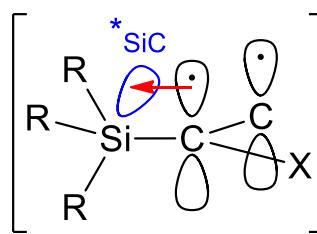


有機14族元素化合物の性質: 置換基としての効果

14族元素の置換基効果: 超共役と負の超共役(第1回資料p21参照)



超共役
(β -カチオン安定化効果)

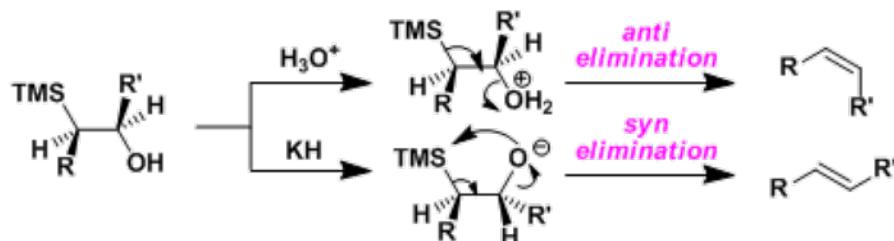


負の超共役
(α -アニオン安定化効果)

有機14族元素化合物の第1イオン化ポテンシャル

化合物	IP ₁ , eV	化合物	IP ₁ , eV
H ₂ C=CH ₂	10.5	C ₆ H ₅ H	9.24
H ₂ C=CHCH ₃	9.73	C ₆ H ₅ CH ₃	8.84
H ₂ C=CHSi(CH ₃) ₃	9.8	C ₆ H ₅ Si(CH ₃) ₃	9.05
H ₂ C=CHGe(C ₂ H ₅) ₃	9.2	C ₆ H ₅ Ge(CH ₃) ₃	9.00
H ₂ C=CHSn(C ₄ H ₉) ₃	8.6	C ₆ H ₅ Sn(CH ₃) ₃	8.94
H ₂ C=CHCH ₂ Si(CH ₃) ₃	9.0	C ₆ H ₅ CH ₂ Si(CH ₃) ₃	8.42
H ₂ C=CHCH ₂ Ge(C ₂ H ₅) ₃	8.8	C ₆ H ₅ CH ₂ Ge(CH ₃) ₃	8.40
H ₂ C=CHCH ₂ Sn(C ₄ H ₉) ₃	8.4	C ₆ H ₅ CH ₂ Sn(CH ₃) ₃	8.21

Petersonオレフィン化



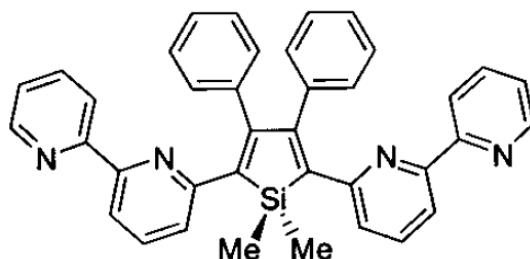
<http://www.chem-station.com/odos/2009/07/peterson-peterson-olefination.html>

酸性条件と塩基性条件で
生成するアルケンの立体が逆に
(酸性条件下の中間体は超共役で安定化)

LG電子有機ELテレビ



負の超共役を用いた有機機能材料



JACS 1996, 118, 11974.

Chem. Mater. 2001, 13, 2680. 有機EL素子の
電子輸送層として利用

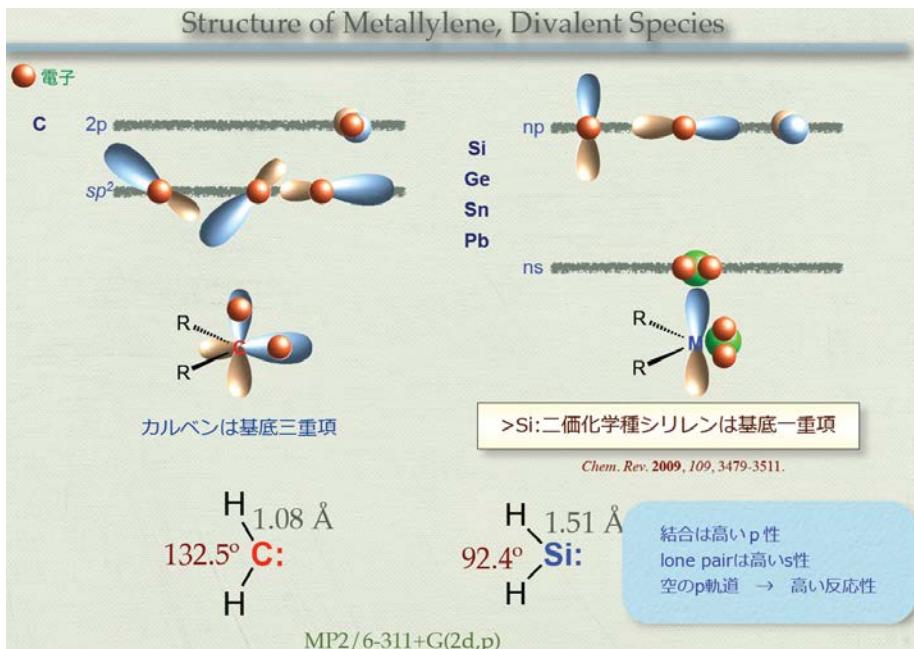


玉尾皓平
京都大学名誉教授



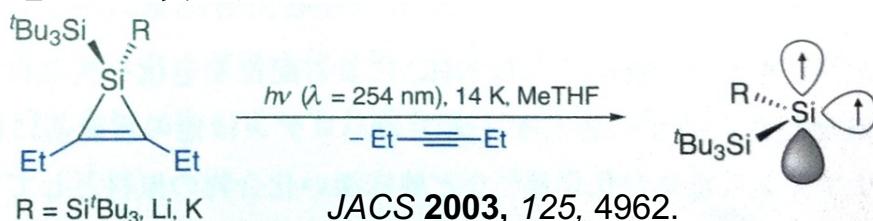
山口茂弘
名古屋大学教授

14族元素高反応性化学種：2価化学種

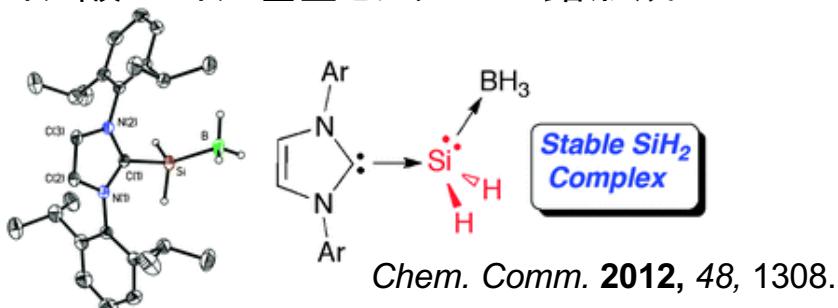


thanks to 笹森貴裕教授(名古屋市立大学)

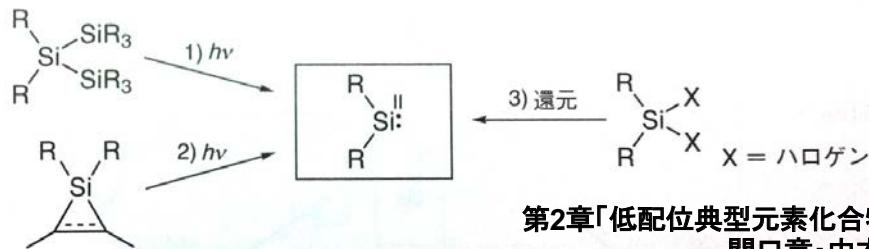
基底三重項シリレン



ルイス酸・ルイス塩基とシリレンの錯形成



シリレンの合成法



第2章「低配位典型元素化合物の化学」

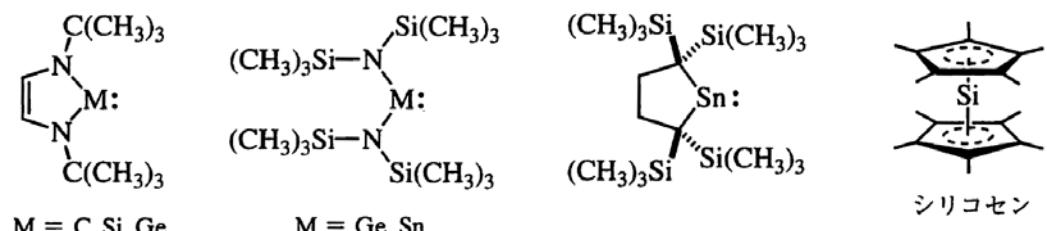
関口章・中本真晃 著

有機金属化学の最前線—多様な元素を使いこなす

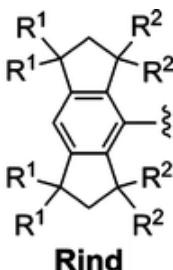
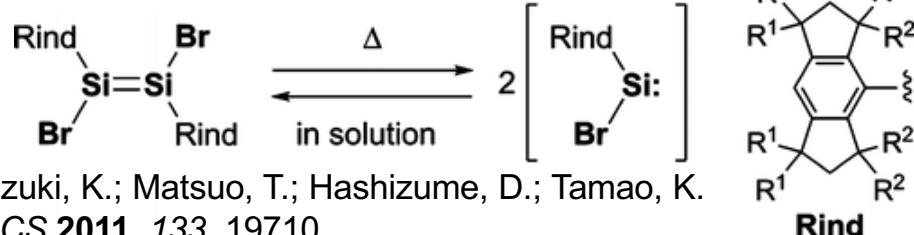
宮浦憲夫・鈴木寛治・小澤文幸・山本陽介・永島英夫 編

東京化学同人 ISBN 978-4807913442

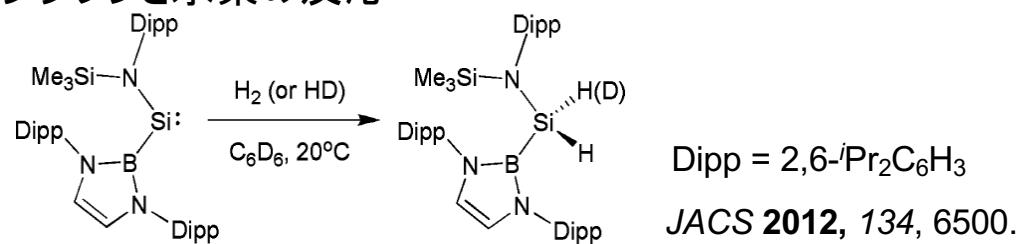
単離可能な安定シリレン



ジシレンとシリレンの解離平衡

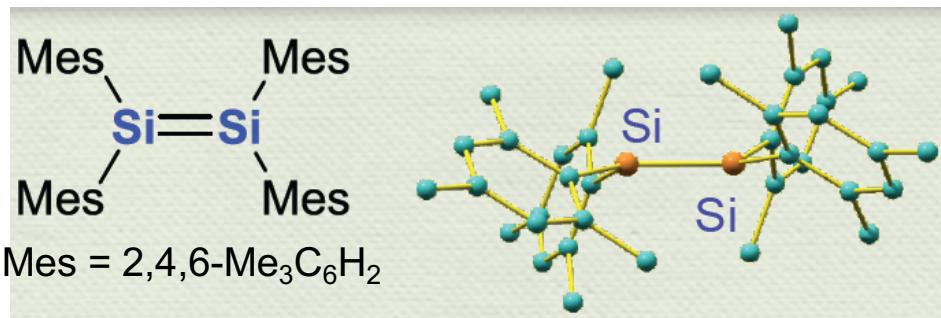


ジシレンと水素の反応



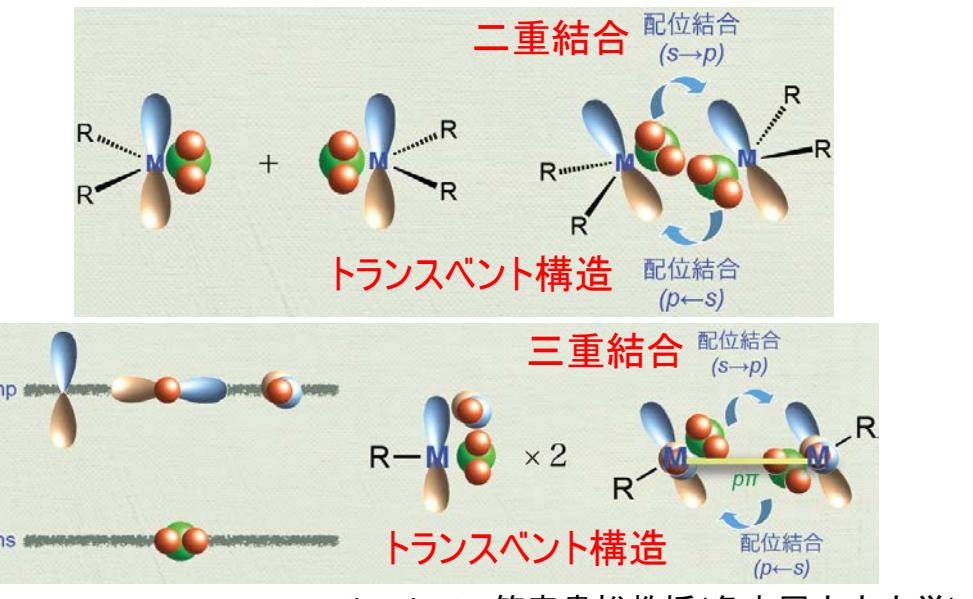
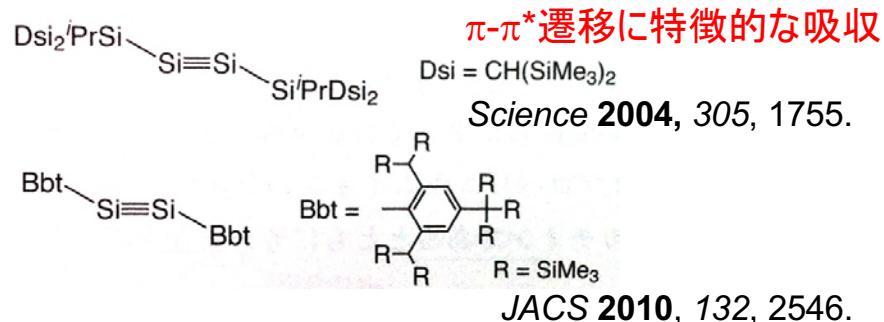
14族元素高反応性化学種：多重結合

Si=Si二重結合化合物ジシレン

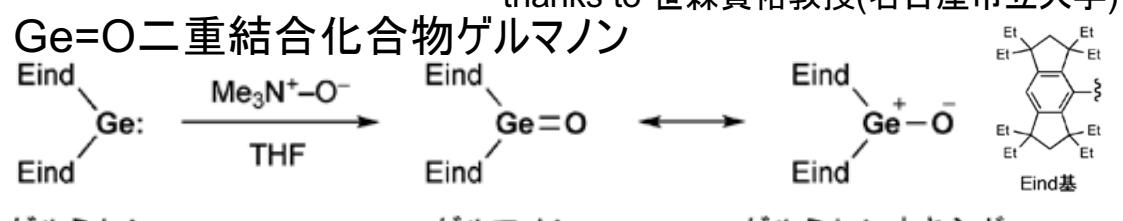
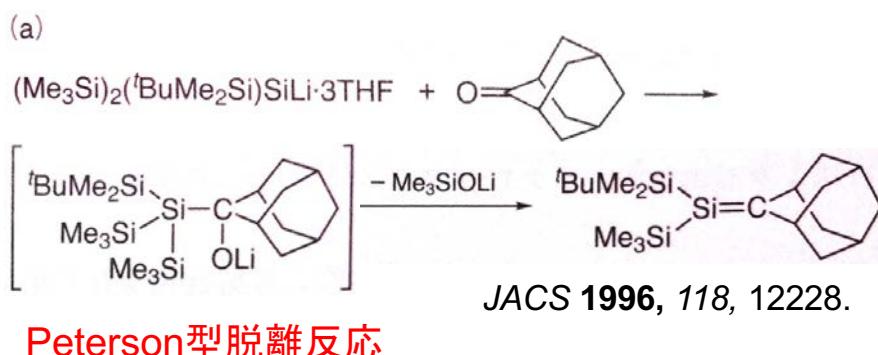


Science 1981, 214, 1343.

Si≡Si三重結合化合物ジシリン

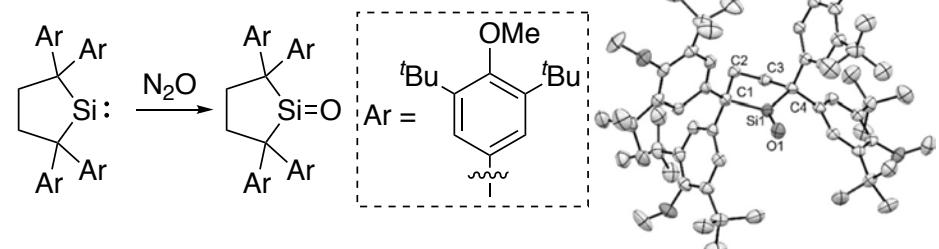


Si=C二重結合化合物シレン



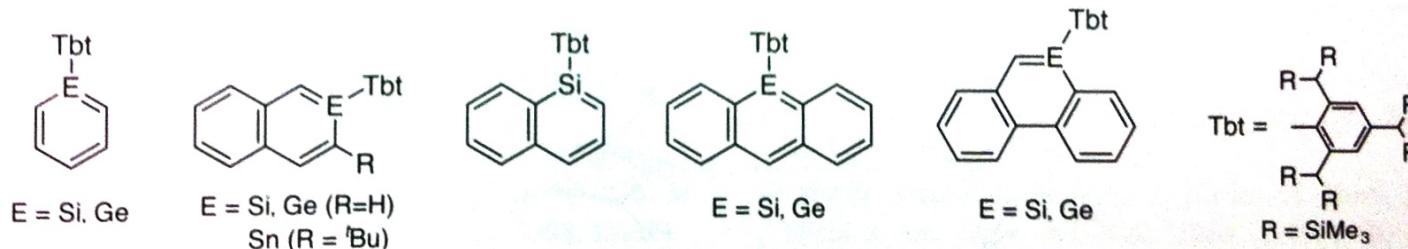
ケトンよりもより極性が高い
 CO_2 や水と容易に反応

最後の大物：Si=O二重結合化合物

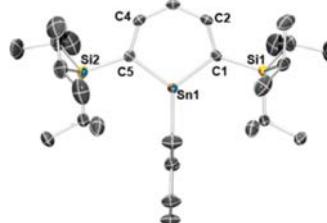


14族元素高反応性化学種：芳香族化合物

中性含ケイ素芳香族 結合交代が無い・遷移金属とπ錯体を形成・特徴的な $\pi-\pi^*$ 吸収

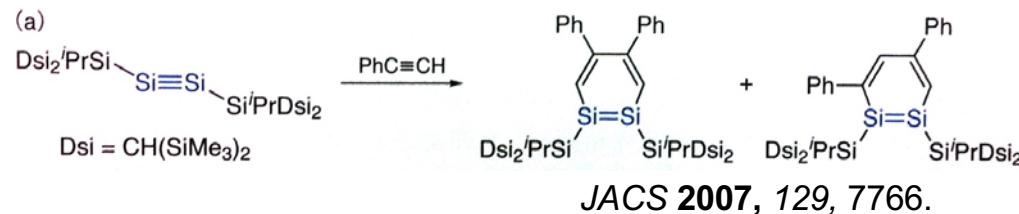


最近スズ含有ベンゼンも単離された

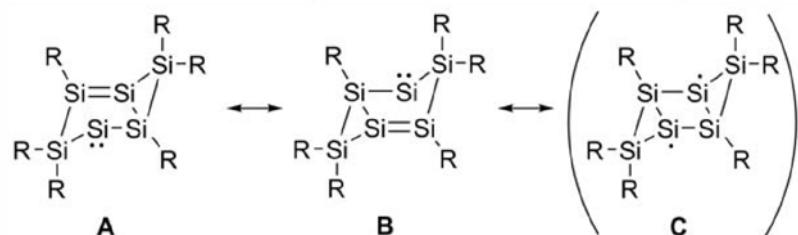
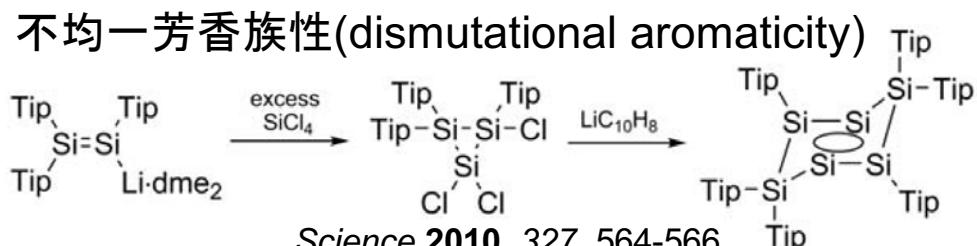


Angew. Chem. Int. Ed. 2019, 58, 7749.

ジシラベンゼン誘導体

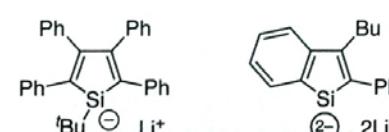
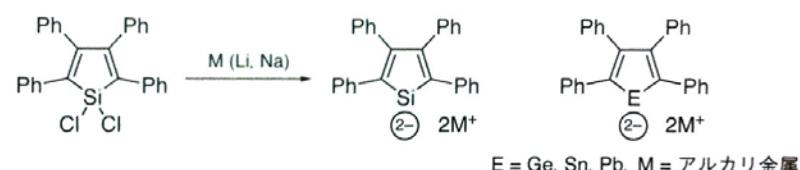


ケイ素1原子とアルキンの直接反応を経由

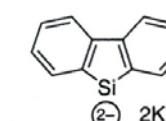
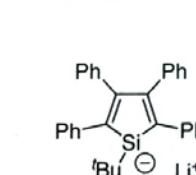


ヘキサシラベンゼンの異性体

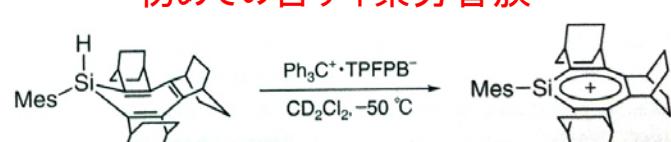
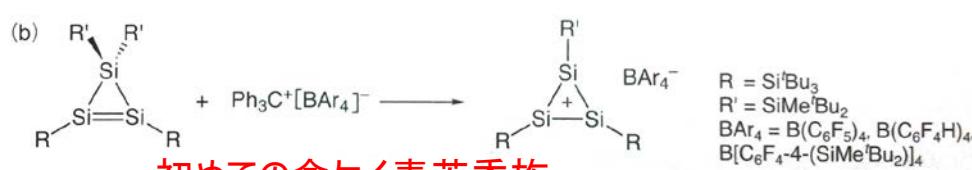
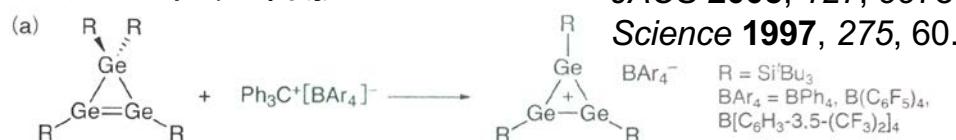
アニオン性芳香族



鉛に関する最近の報告 *Science* 2010, 328, 339.



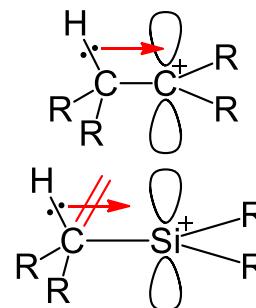
力チオニ性芳香族



トロピリウムイオンのケイ素版

14族元素高反応性化学種：力チオ

シリルカチオンの不安定性

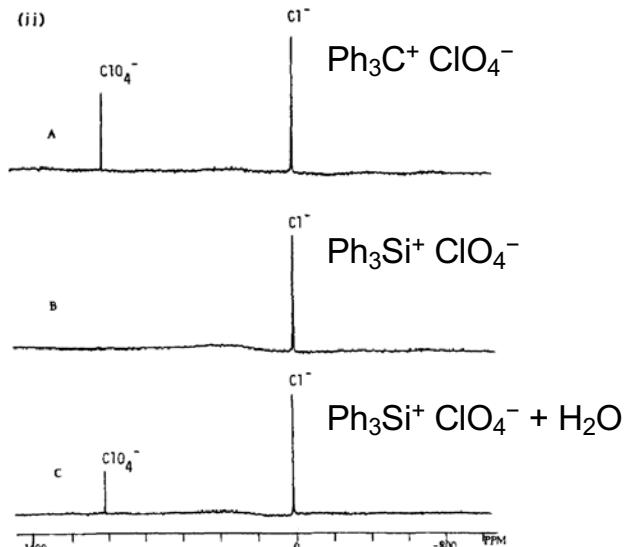


カルボカチオンでは
超共役による安定化があるが
シリルカチオンはSi-C結合が長いので
超共役による安定化を得にくい

初期の研究: $\text{Ph}_3\text{Si}^+\text{ClO}_4^-$

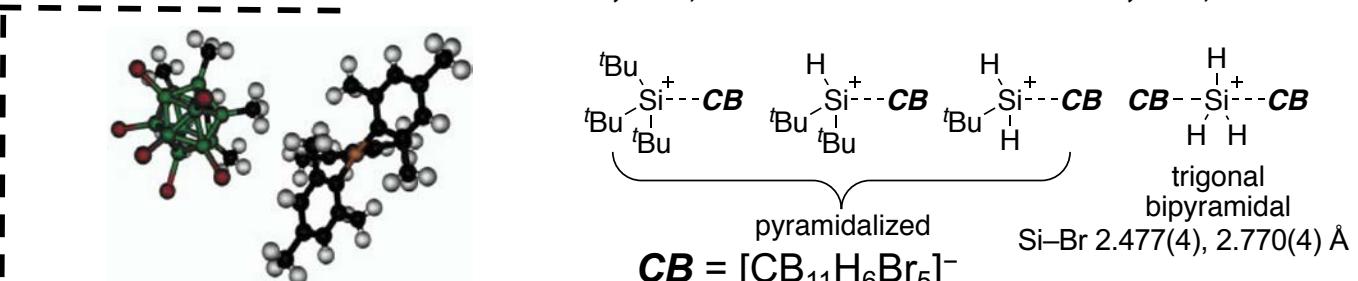
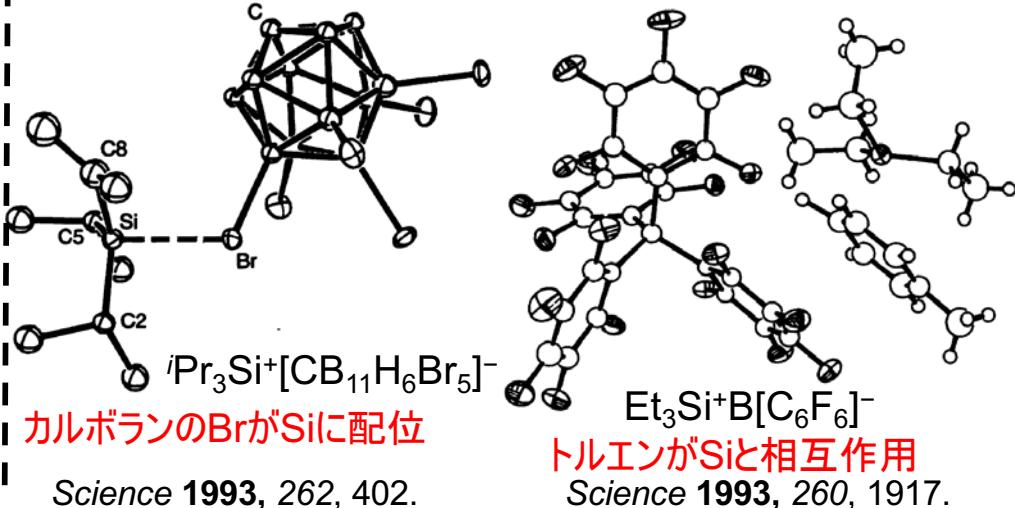


^{35}Cl NMRによるOlahらの反論



溶液中で ClO_4^- が Si に結合していたら
 ^{35}Cl NMR がブロードニングするはず

非配位性アニオンを用いる検討

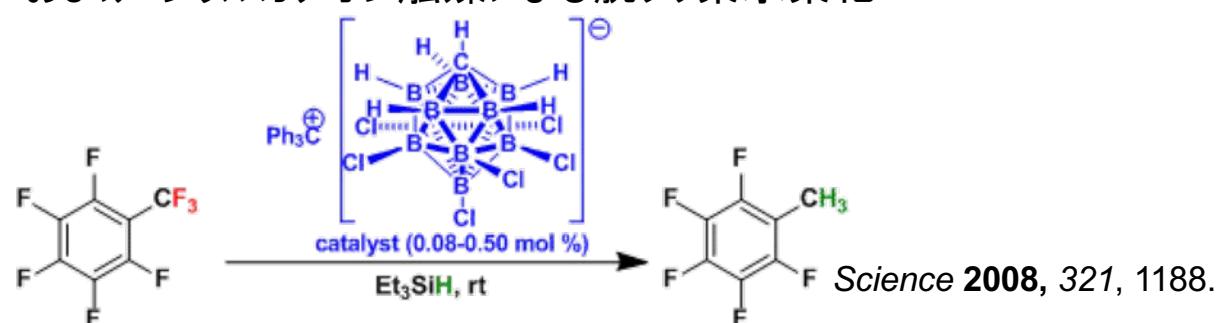


メシチル基置換シリルカチオンの単離

Science 2019, 365, 168.

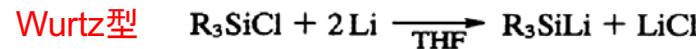
ヒドリド置換シリルカチオンの単離
両側から配位された三方両錐構造

おまけ: シリルカチオン触媒による脱フッ素水素化



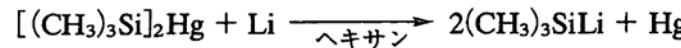
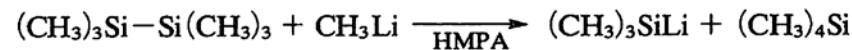
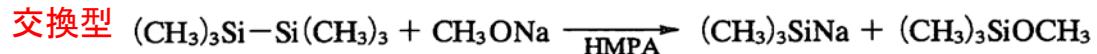
14族元素高反応性化学種: アニオン

シリルアニオン種の調製

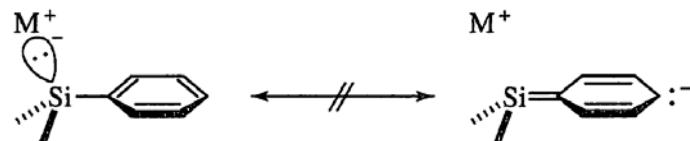


$\text{R}_3\text{Si} = \text{C}_6\text{H}_5(\text{CH}_3)_2\text{Si}, (\text{C}_6\text{H}_5)_2\text{CH}_3\text{Si}, (\text{C}_6\text{H}_5)_3\text{Si}, [(\text{C}_2\text{H}_5)_2\text{N}](\text{C}_6\text{H}_5)_2\text{Si}$, など

金属-ハロゲン

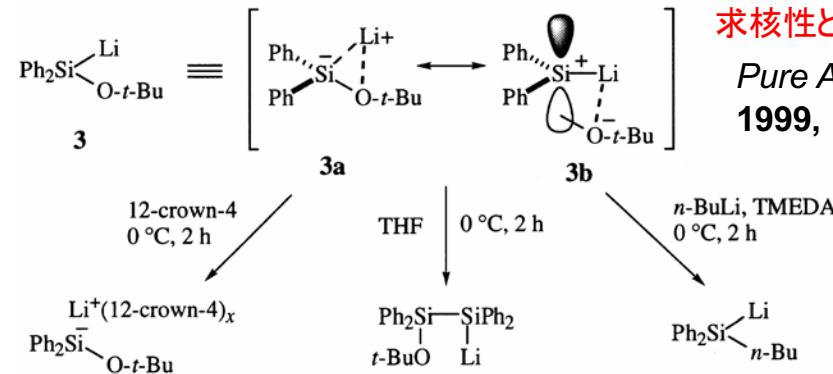


シリルアニオンの立体反転



C=Si二重結合が不安定であるため
共鳴が書けず、立体は反転しにくい

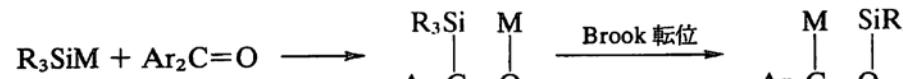
シリレノイド: 官能基化シリルアニオン



カルベノイドと同様に
求核性と求電子性を示す

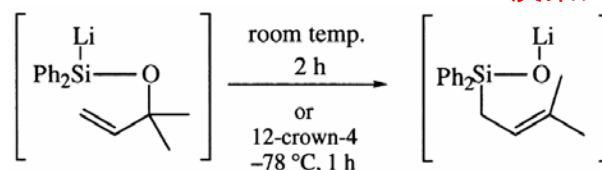
Pure Appl. Chem.
1999, 71, 393.

ケイ素の転位反応: Brook転位とsila-Wittig転位



Acc. Chem. Res. 1974, 7, 77.

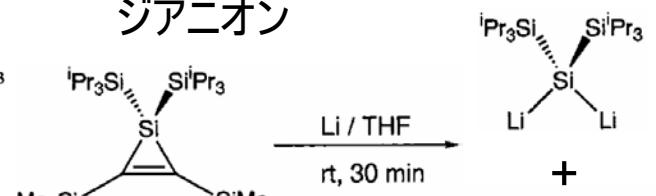
酸素アニオンから
炭素アニオン生成



JACS 1997, 119, 233.

ケイ素アニオンから
酸素アニオン生成
(sila-Wittig転位)

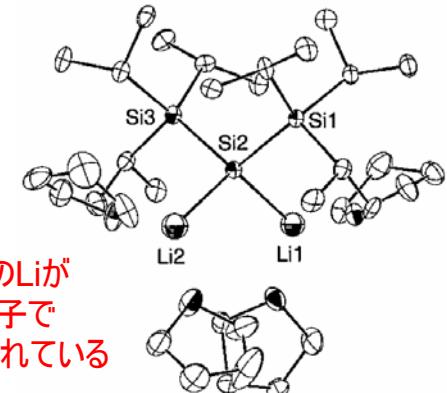
ジアニオン



JACS 1999, 121, 10231.

ケイ素と炭素の違い: 大きなケイ素は
アニオン電荷を非局在化しやすい

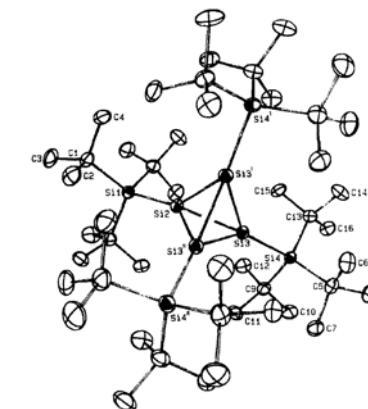
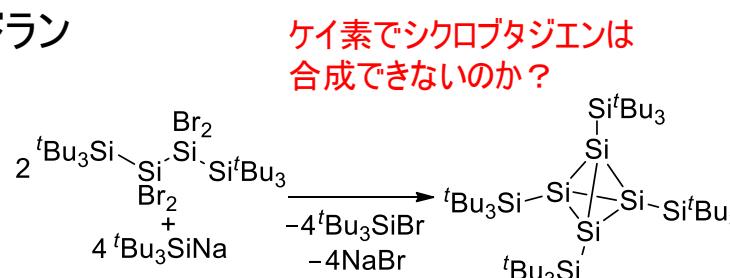
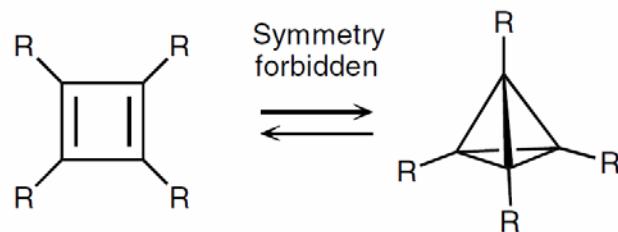
X線結晶構造解析



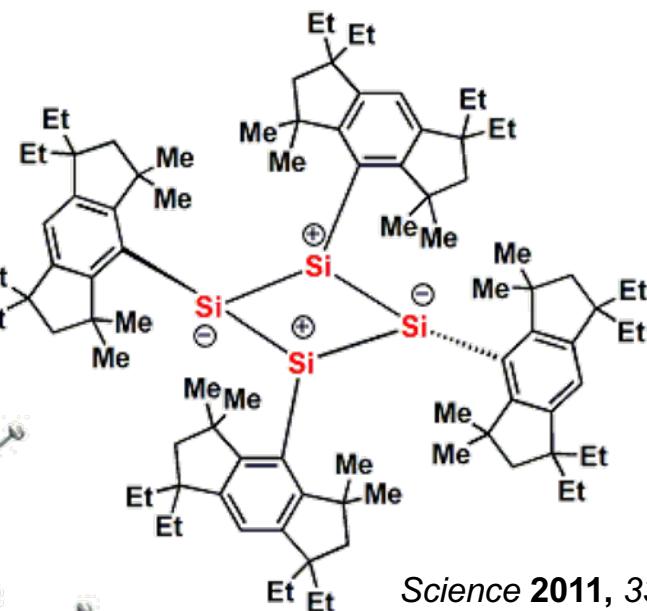
それぞれのLiが
THF2分子で
溶媒和されている

14族元素高反応性化学種：反芳香族？イオン？

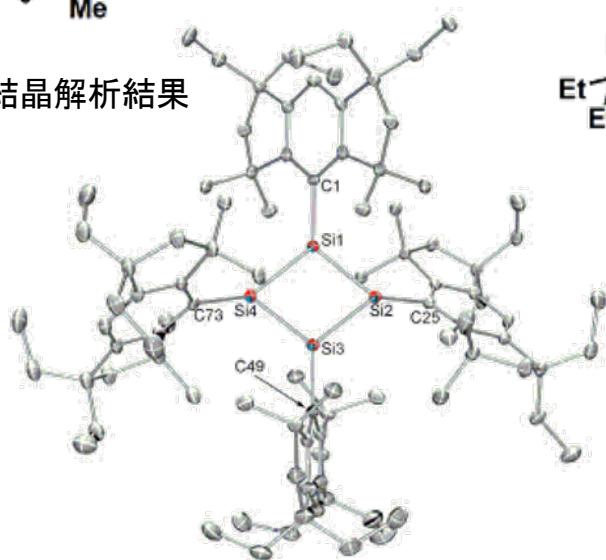
異性体：シクロブタジエンvs.テトラヘドラン



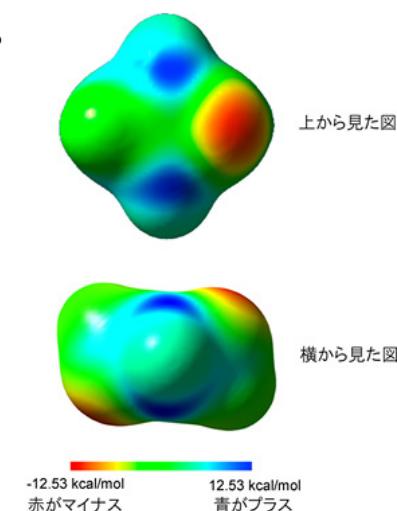
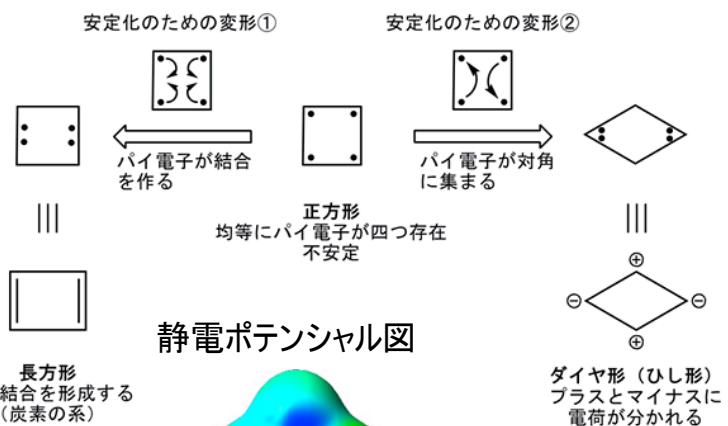
シクロブタジエン？
→菱形のイオン構造だった



X線結晶解析結果

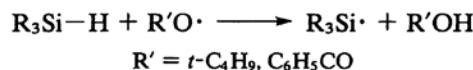
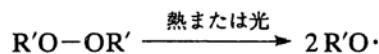


Science 2011, 331, 1306.

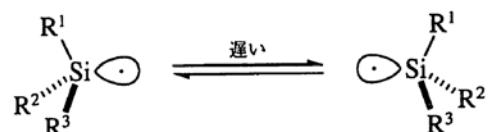
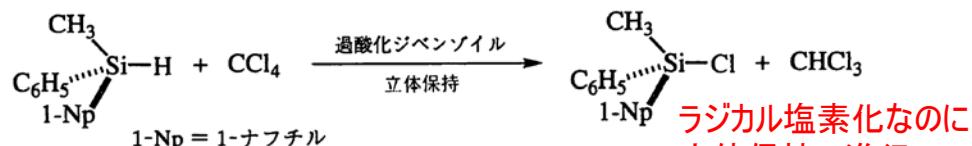


14族元素高反応性化学種：ラジカル

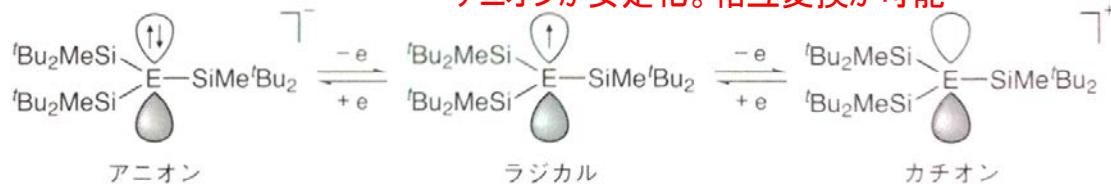
M-Hは容易に引き抜かれて14族ラジカルを形成



14族ラジカルの反転は遅い



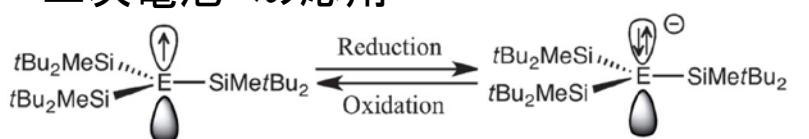
安定な14族ラジカル



JACS 2002, 124, 9865. JACS 2002, 124, 15160.

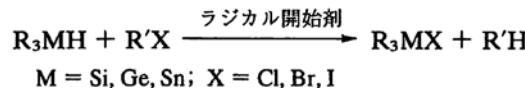
ACIE 2003, 42, 1143. JACS 2003, 125, 9250.

二次電池への応用 ラジカルとア



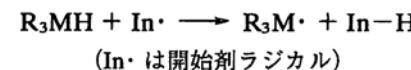
E = Si (1), Ge (2), Sn (3) ACIE 2014, 53, 1324.

ハロゲン化アルキルのラジカル還元反応

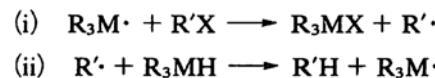


"Bu₃SnHが最も広く使われる

開始反應



連鎖成長反應



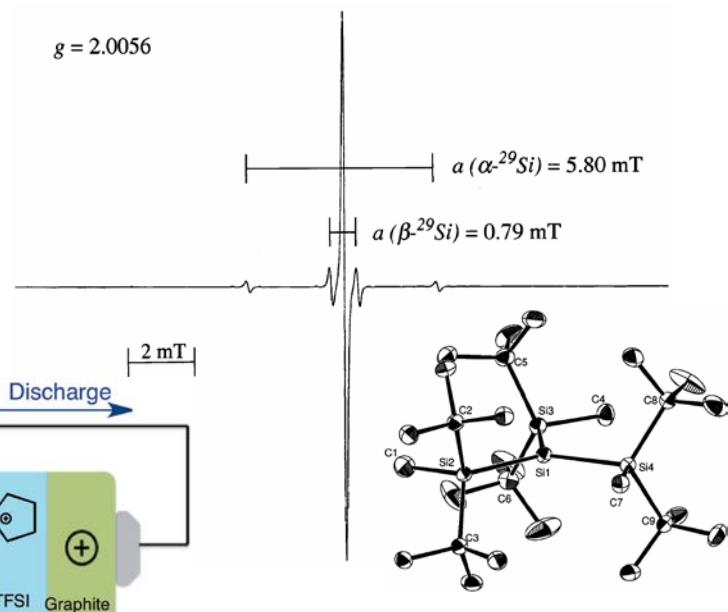
M–H結合解離エネルギー(kJ/mol)

$(CH_3)_3Si$	$[(CH_3)_3Si]_3Si$	$(n-C_4H_9)_3Ge$	$(n-C_4H_9)_3Sr$
378	331	347(推定)	310

毒性の低いケイ素を使用
ケイ素置換基でSi-H結合弱くなる
TCIやAldrichで市販している

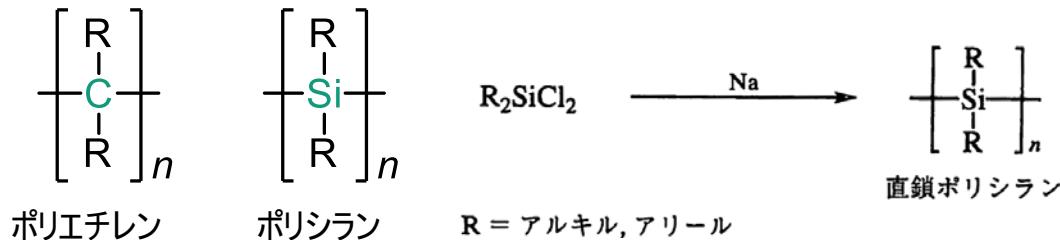
J. Org. Chem. **1991**, *56*, 678.

ケイ素ラジカルのESRスペクトルとX線結晶構造

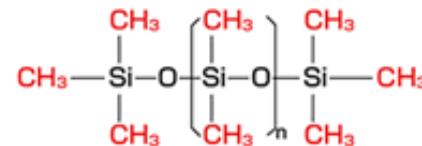


14族元素化学: σ 共役

カテネーション(catenation):
同じ元素が連結して鎖を作る現象

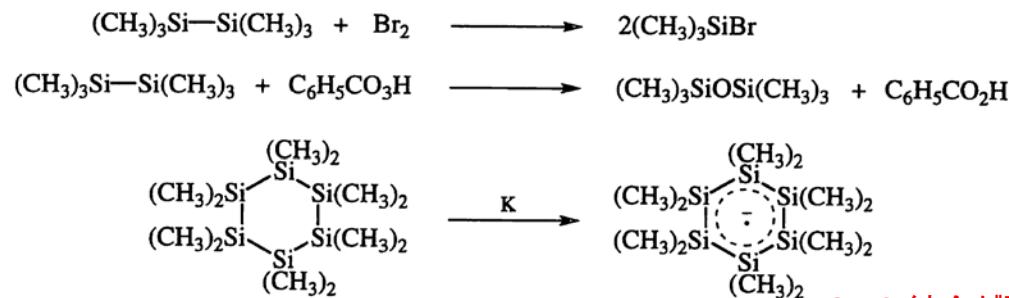


関連ポリマー: ポリシリキサン



シリコングリース・シリコーンオイル・
GC固定相・化粧品・酸素透過コンタクトレンズ
などに利用されている

14族 σ 結合の特異な反応性:

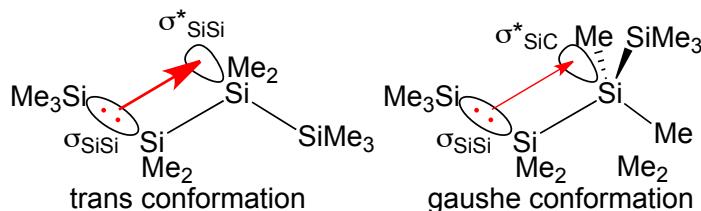


14族 σ 結合のイオン化ポテンシャルは小さい

表 8・10 ベルメチルオリゴシランのイオン化ポテンシャルと紫外吸収極大

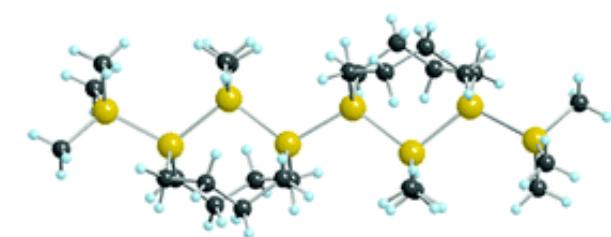
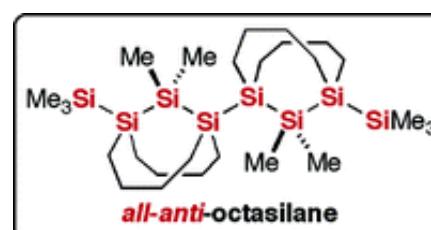
化合物	IP ₁ , eV	λ_{\max} , nm (ϵ)
$(CH_3)_3SiSi(CH_3)_3$	8.69	197 (8500)
$(CH_3)_3SiSi(CH_3)_2Si(CH_3)_3$	8.19	215 (9000)
$(CH_3)_3SiSi(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_3$	7.98	235 (14700)
$(CH_3)_3SiSi(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_3$	7.79 (推定)	250 (18400)
$(CH_3)_3SiSi(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_2Si(CH_3)_3$	—	260 (21100)

σ 共役



UV,IRによりそれぞれの異性体を帰属
trans異性体はよりred shiftした吸収を示す

Chem. Phys. Lett. 1992, 198, 400.



全てtransに固定されたオクタシランを単離・構造決定
フリーのオクタシランに比べてred shiftした吸収を観測
モル吸光係数の増大も観測された

JACS 2006, 128, 6800.

15族元素3価3配位化合物

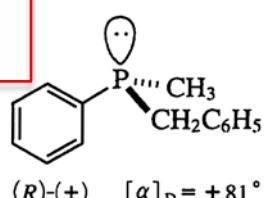
アミンとホスフィンの違い

表 8・12 トリメチルアミンとトリメチルホスフィンの比較

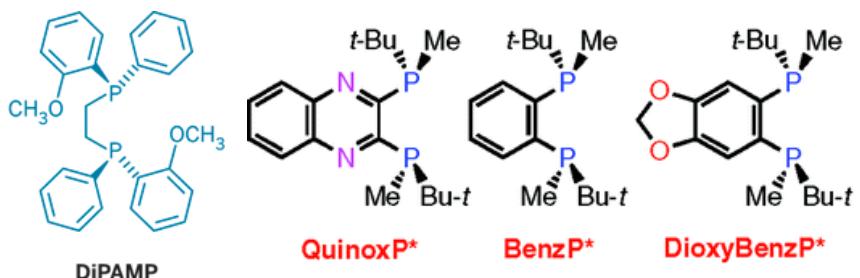
	IP ₁ , eV	共役酸の pK _a	反転障壁, kJ mol ⁻¹
(CH ₃) ₃ N	8.44	9.76	34
(CH ₃) ₃ P	8.60	8.65	133

リンは反転障壁が窒素よりも高い
→平面構造に必要なsp²混成軌道をとりにくい

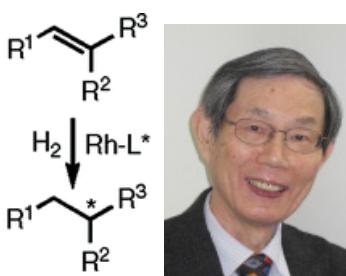
=



Pキラルリン化合物の不齊配位子としての応用



up to 99.9% ee



イオン価ポテンシャルの違い=軌道の混成の違い

NH₃のNH結合はsp^{2.90}混成=lone pairはsp^{2.37}

PH₃のPH結合はsp^{3.83}混成=lone pairはsp^{0.95}

→lone pairのs性が高い

=

15族3価3配位化合物の構造の違い

	r	θ
Phosphine	1.419 Å ^a	93.5°
Arsine	1.523 Å	92.0°
Stibine	1.712 Å	91.5°

Phys. Rev. 1951, 81, 798.

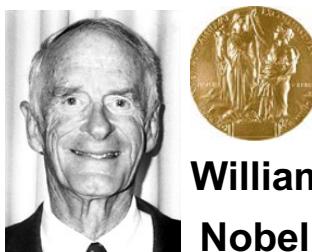
重い元素の方が

結合が長い=

結合角小さい=



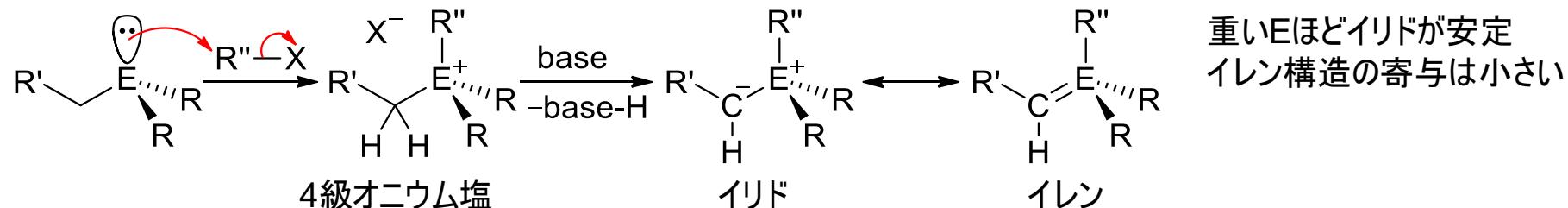
今本恒雄
千葉大学
名誉教授



William S. Knowles
Nobel Prize 2001

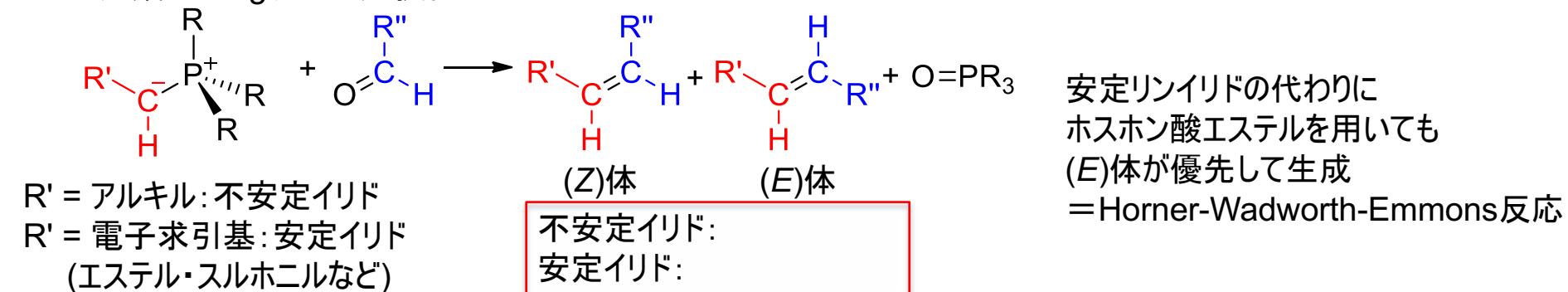
15族元素オニウム塩とイリド

4級オニウム塩の生成 ($E = N, P, As, Sb, Bi$)

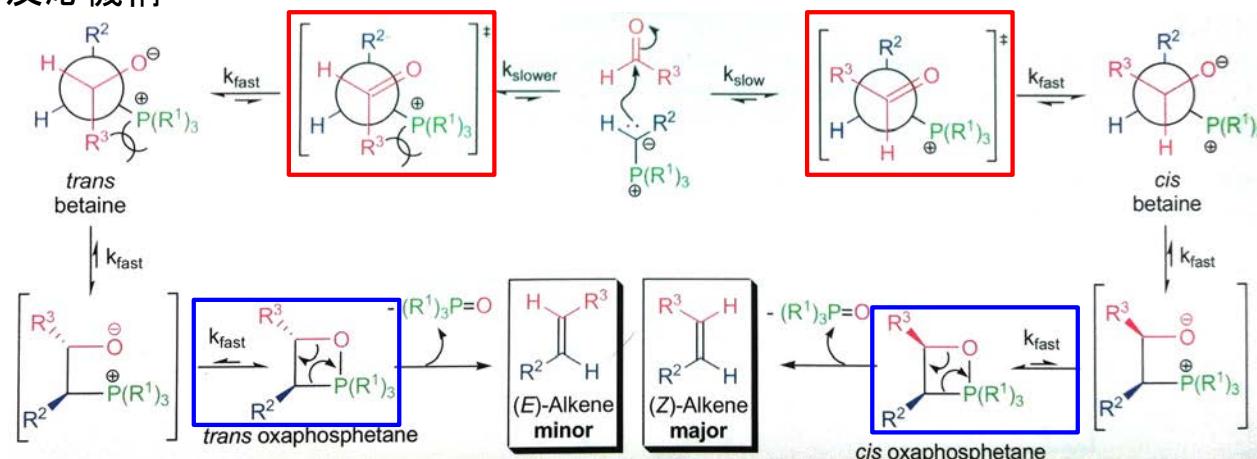


Wittig反応とHorner-Wadsworth-Emmons反応

イリドの分類とWittig反応の選択性



反応機構



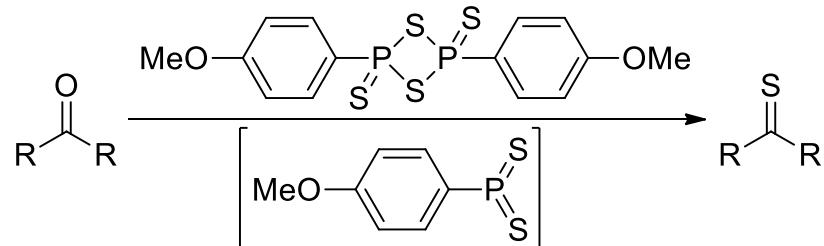
不安定イリド: オキサホスフェタンの生成までが不可逆 →

安定イリド: 最終段階以外は可逆

テキスト
 大学院講義有機化学IIのp37-参照

15族元素を含有した多重結合①

P=S二重結合を有するLawesson反応剤:
ケトンをチオカルボニルに変換できる



Org. Synth. **1984**, 62, 158.

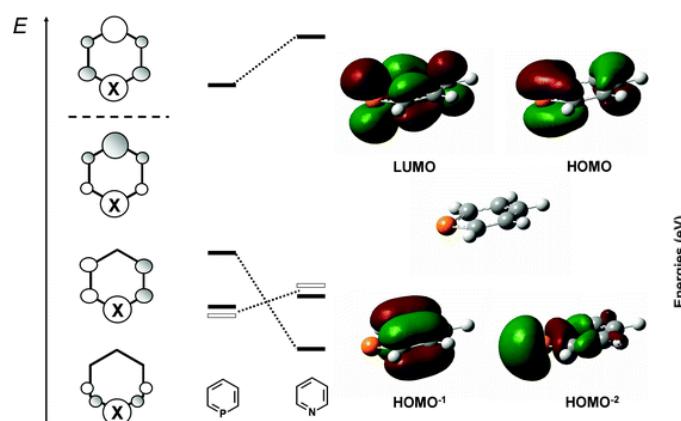
P=Se二重結合を有するホスフィンセレニド:
NMRにおける $^{31}\text{P}-^{77}\text{Se}$ カップリング定数の値が
リン配位子の電子供与性評価に使用される

No.	Compound	$\delta\text{P(III)}$ (ppm)	$\delta\text{P(V)}$ (ppm)	$^1J_{\text{Se-P}}$ /Hz
1	PPh_3	-5.31	36.77	728.9
2	PPh_2Cy	-1.33	46.25	724.9
3	PPhCy_2	4.98	55.87	701.2
4	PCy_3	11.13	59.18	672.9

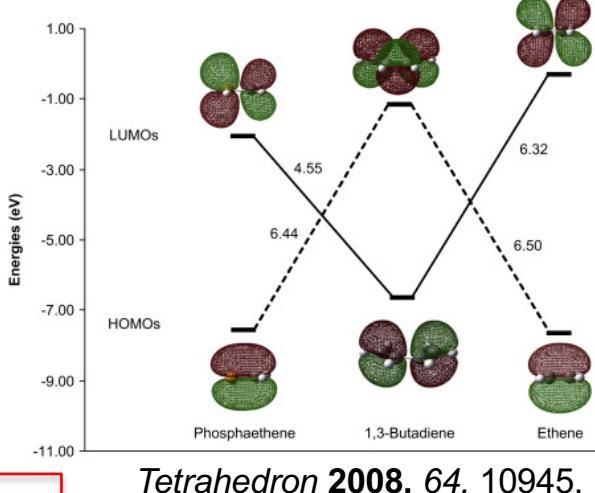
J. Chem. Soc., Dalton Trans., **1982**, 51.
Dalton Trans. **2008**, 650.

錯体触媒配位子としての利用

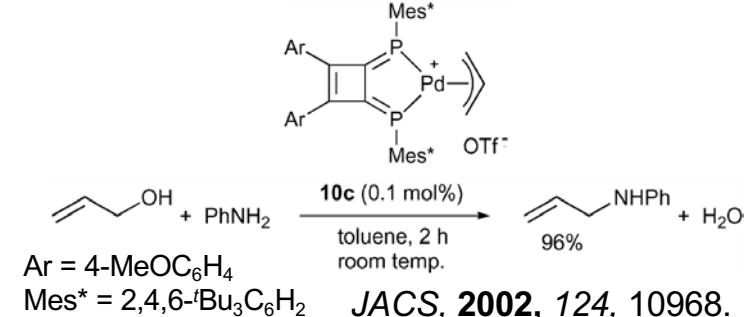
P=C二重結合: ホスファアルケン・ホスファベンゼン



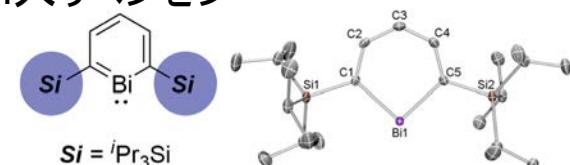
Dalton Trans. **2007**, 5505



Tetrahedron **2008**, 64, 10945.



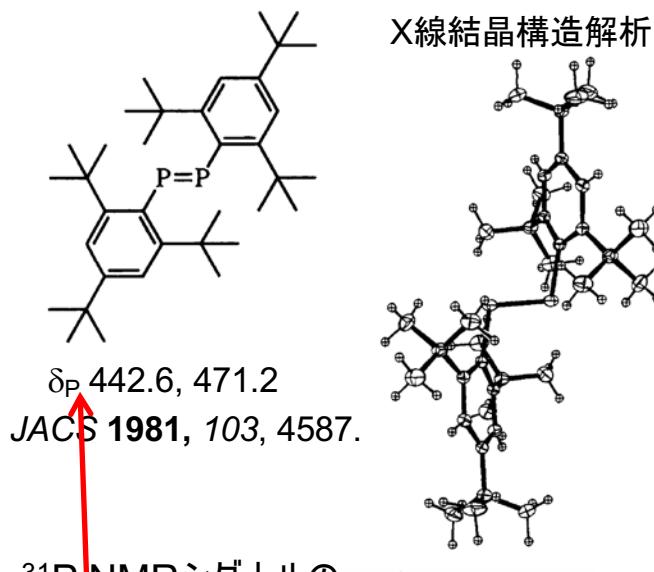
Bi入りベンゼン



JACS **2016**, 138, 12787.

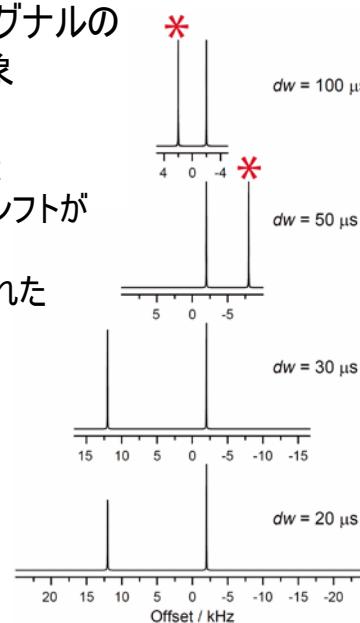
15族元素を含有した多重結合②

P=P二重結合：重いアゾ化合物



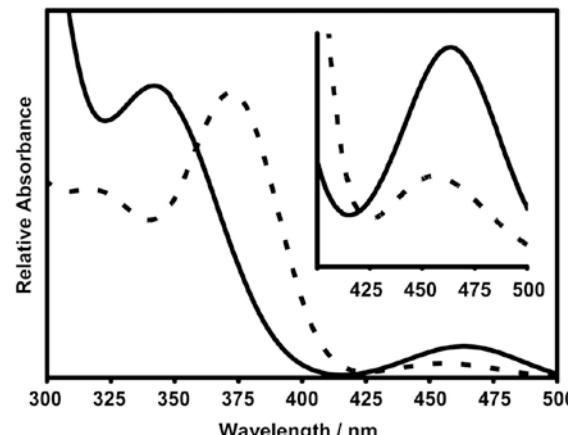
^{31}P NMRシグナルの
折り返し現象

最初の報告では
 ^{31}P NMR化学シフトが
 δ_P -59.0と
間違って報告された

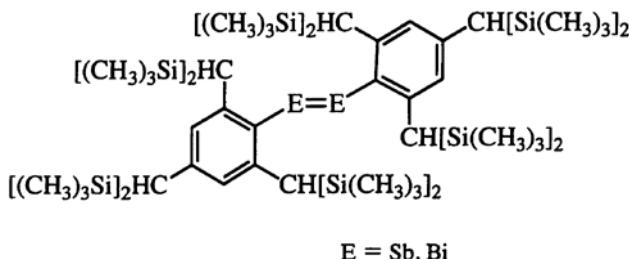


多核NMRでは測定範囲外のシグナルが
端から折り返して出てくる現象がある

ジホスフェンのUV-visスペクトル



さらに重い同族体

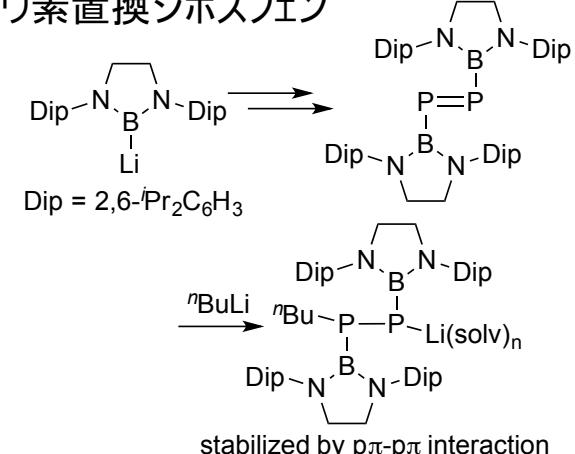


JACS 1998, 120, 433.
Science 1997, 277, 78.

「世界で最も重い二重結合」として報告された

名古屋市立大学
笹森貴裕教授

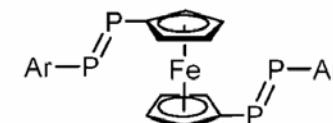
ホウ素置換ジホスフェン



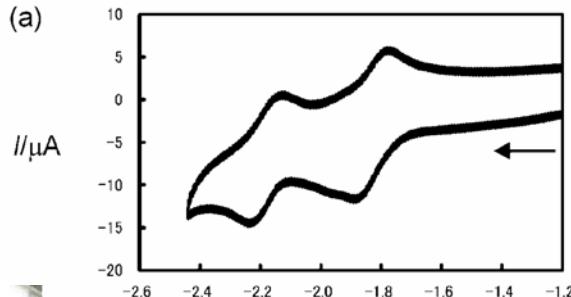
ホウ素の置換基効果で
付加体が安定化して得られる

ACIE 2016, 55, 12827.

d電子系化合物との共役



(a) Ar = Tbt ((E,E)-1a), Bbt ((E,E)-1b)

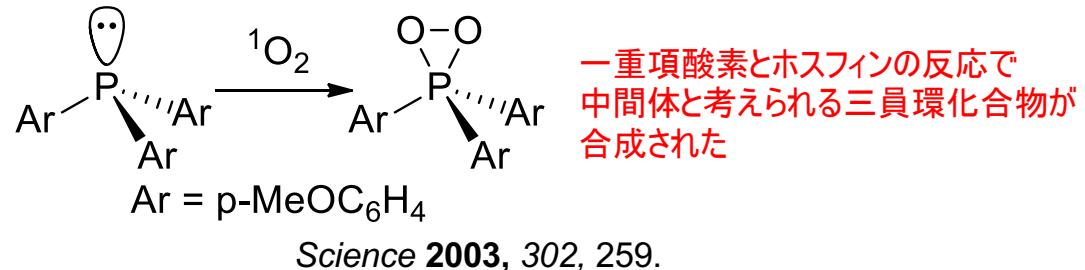
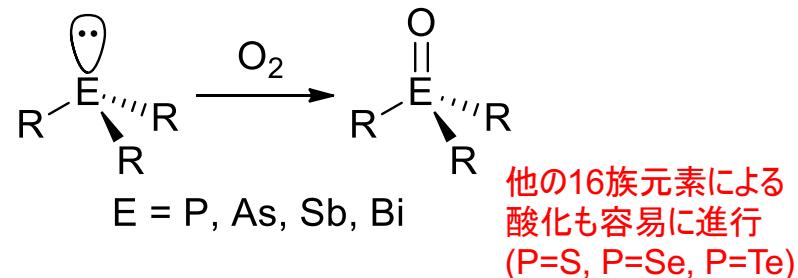


二段階の還元が観測されるが
二回目の還元は起こりやすい
=

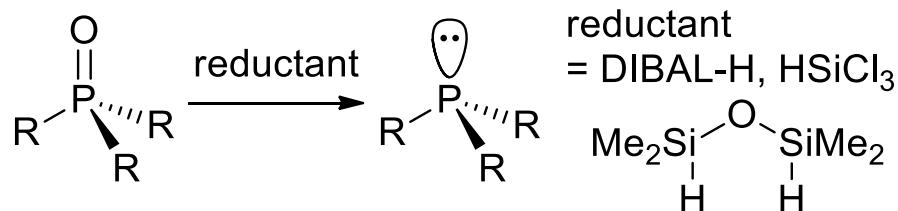
Bull. Chem. Soc. Jpn. 2007, 80, 1884.

15族元素中心の酸化と還元

15族3価3配位化合物は酸素と容易に反応してオキシドを与える

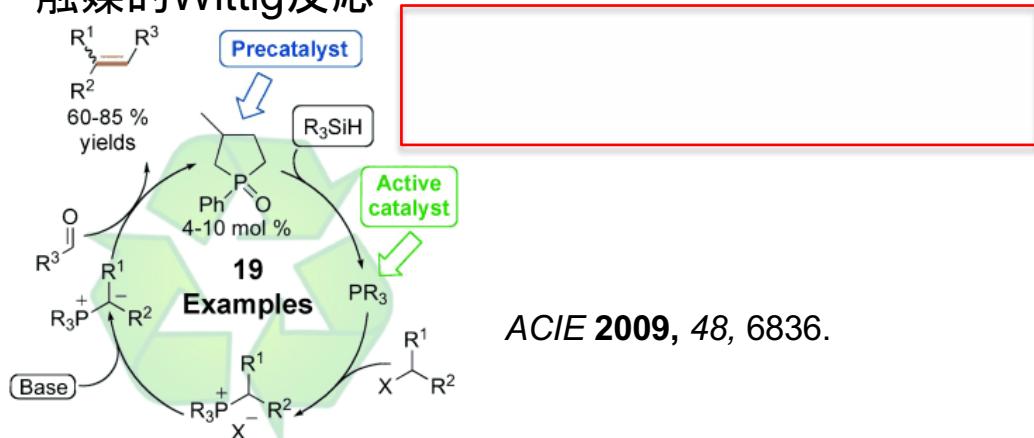


逆反応(還元)は比較的強い条件が必要

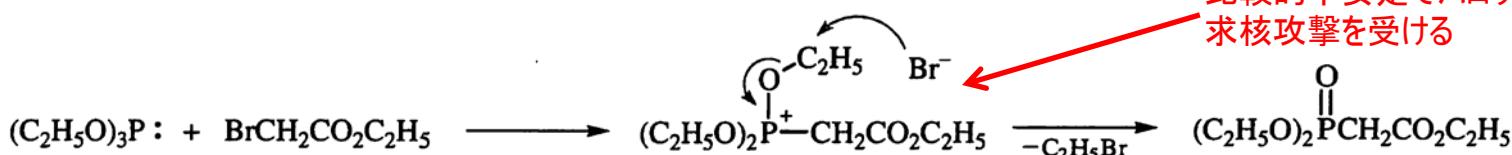


一般的にはケイ素やアルミニウムの塩が副生し
分離が困難になる場合が多い

触媒的Wittig反応

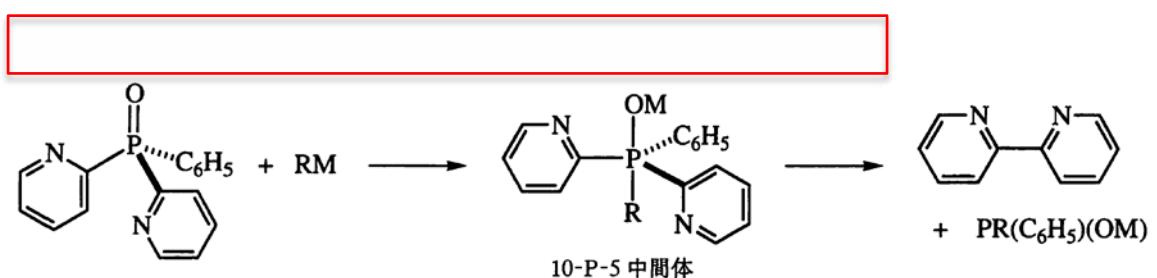
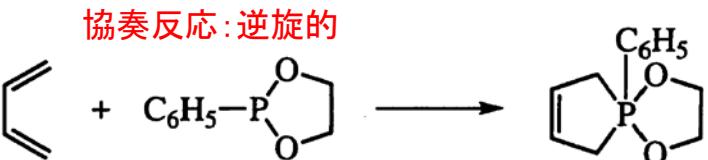


Arbuzov反応: ホスファイトとハロゲン化アルキルの反応



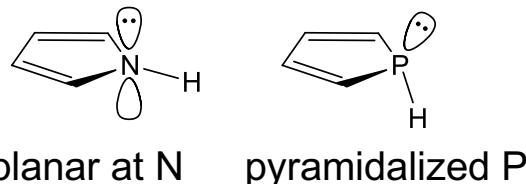
トリアルコキシホスホニウム塩は
比較的不安定でハロゲン化物イオンの
求核攻撃を受ける

酸化的環化とリガンドカップリング

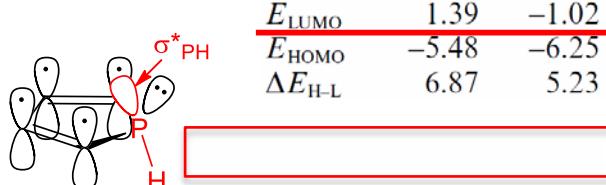


リン含有有機材料と σ - π 共役: ホスホール

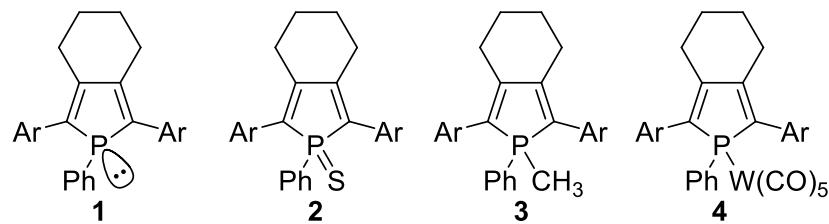
pyrrole vs. phosphole



ホスホールはリン原子がピラミッド化しているので
芳香族ではない=反応性が高い

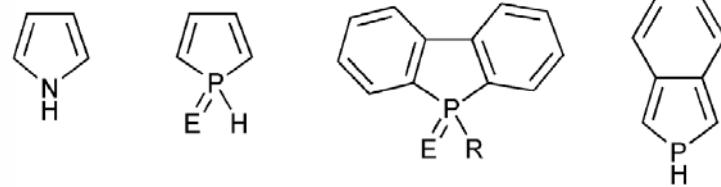


置換基効果による吸収スペクトル変化



	λ_{max}^a (nm)	λ_{onset}^a (nm)	$\log \epsilon$	λ_{em}^a (nm)	ϕ_f^b	E_{pa}^c (V)	E_{pc}^c (V)
1	412	468	3.93	501	5.0×10^{-2}	+0.40	
2	432	496	3.98	548	4.6×10^{-2}	+0.68	-1.95
3	442	528	3.92	593	0.8×10^{-2}	+0.92	-1.66
4	408	475	4.04	506	1.3×10^{-2}	+0.70	-2.20

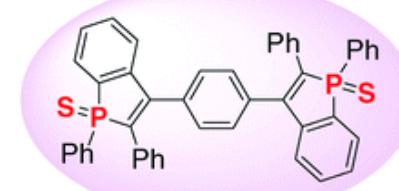
リン原子のlone pairを反応させた誘導体へと導くと
LUMOが下がる=
=



Compd	1	2	3	4	5	6	7
E_{LUMO}	1.39	-1.02	-2.10	-0.98	-0.97	-1.48	-1.97
E_{HOMO}	-5.48	-6.25	-6.91	-5.93	-5.91	-6.23	-5.26
$\Delta E_{\text{H-L}}$	6.87	5.23	4.81	4.95	4.94	4.75	3.29

Org. Biomol. Chem. 2009, 7, 1258.

応用:
n型有機半導体

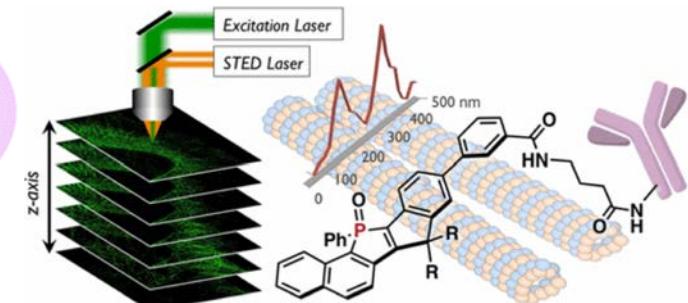


$$\mu_e = 2 \times 10^{-3} \text{ cm}^2/\text{Vs}$$

$$T_g = 148^\circ\text{C}$$

J. Mater. Chem.
2009, 19, 3364.

耐光性蛍光色素



J. Am. Chem. Soc.
2017, 139, 10374.

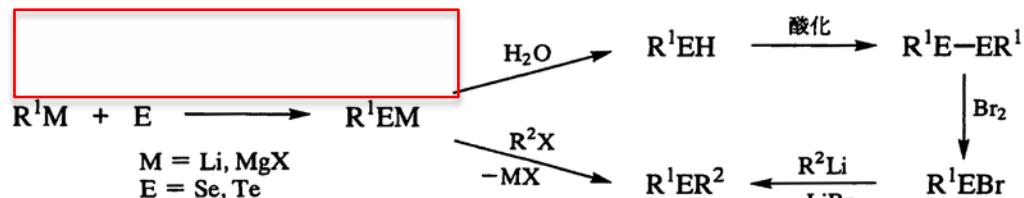
ホスホールスルフィドの
電子受容性を活かした
n型有機半導体

ホスホールオキシドの低いLUMOと
剛直な骨格で高効率蛍光発光と
耐光性と水溶性を同時達成

=STED顕微鏡の励起レーザーにも安定

16族元素2配位化合物

16族2配位化合物の相互変換



おまけ: 硫黄・セレン・テルルの単体の写真



化合物の命名

RSR : チオール

RSeH : セレノール

RTeH : テルロール

RSR : スルフイド

RSeR : セレニド

RTeR : テルリド

RSSR : ジスルフイド

RSeSeR : ジセレニド

RTeTeR : ジテルリド

REH ($E = O, S, Se, Te$)の性質

酸性度: $O < S < Se < Te$

共役塩基 RE^- の塩基性: $O > S > Se > Te$

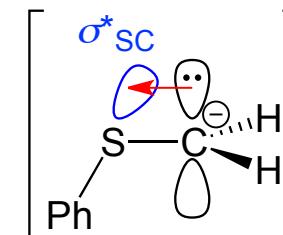
共役塩基 RE^- の求核性: $O < S < Se < Te$

→ RE⁻の安定性も $O < S < Se < Te$

α -アニオン安定化効果(14,15族を参照)

メチルプロトンの脱プロトン化速度

$(C_6H_5)_2NCH_3(1) < C_6H_5OCH_3(40) < C_6H_5SeCH_3(2 \times 10^7) < C_6H_5SCH_3(2 \times 10^8)$



(括弧内は相対速度)

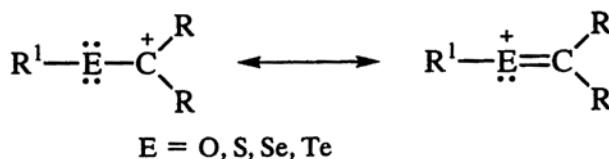
NよりOが電気陰性度が高い

OよりS,Seの方が σ^* が低い

C-SeよりC-S結合が短い

→

カルボ力チオンと16族元素置換基

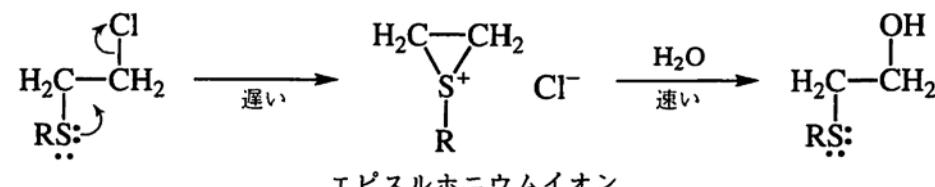


重い16族元素は
隣接カルボ力チオンを安定化しない

→

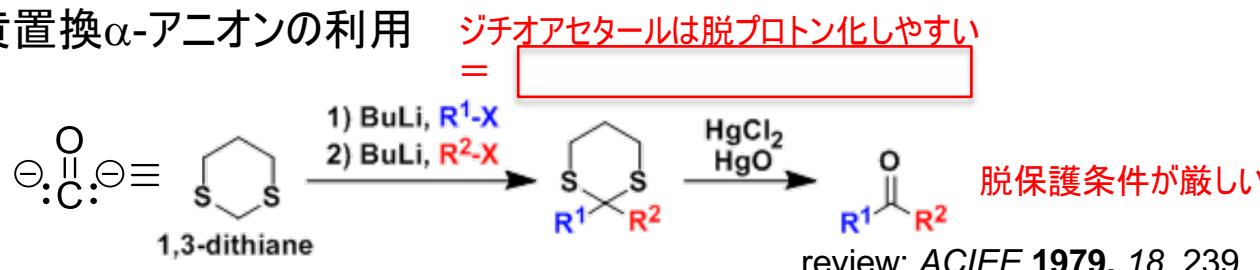
加水分解速度

$EtSCH_2CH_2Cl >> EtOCH_2CH_2Cl$

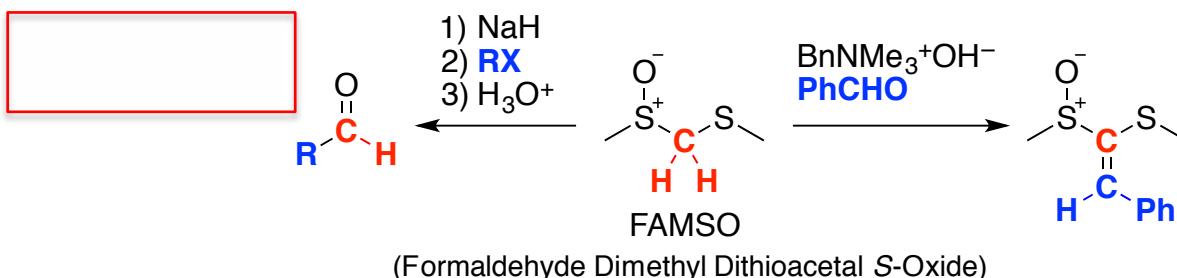


16族元素2配位化合物:合成化学への利用

硫黄置換 α -アニオンの利用



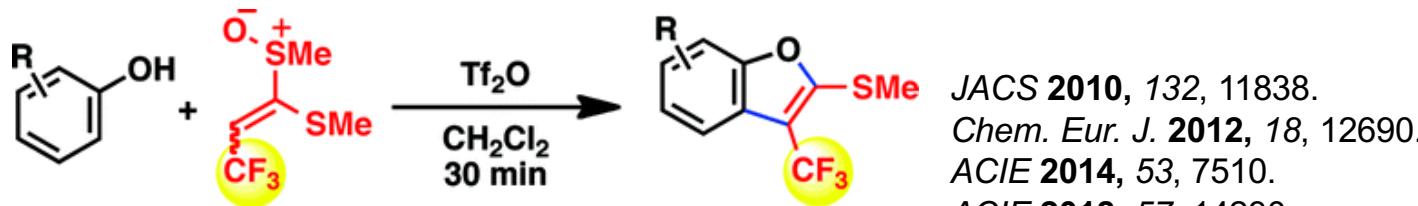
改良版ジチオアセタール: FAMSO



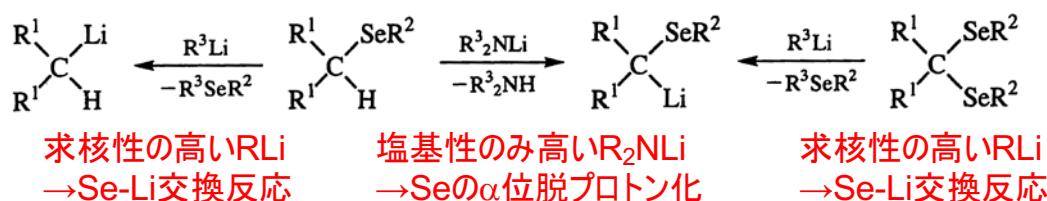
Tetrahedron Lett. 1971, 12, 3151.
Tetrahedron Lett. 1972, 13, 1383.
Bull. Chem. Soc. Jpn. 1979, 52, 2013.
review: <http://www.tokyokasei.co.jp/kikou/bun/129dr.pdf>

千葉大学
小倉克之名誉教授

FAMSO由来のketene dithioacetal monoxideを活用したベンゾフラン合成



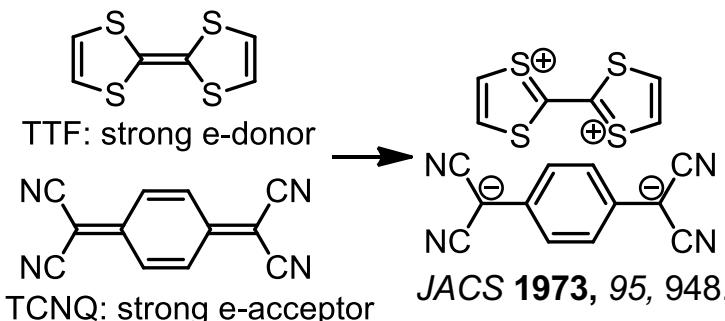
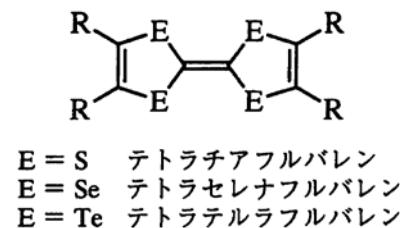
セレン置換基の利用: α -アニオン安定化vs.Se-Li交換反応



京都大学
依光英樹教授

16族元素2配位化合物: 材料化学への利用

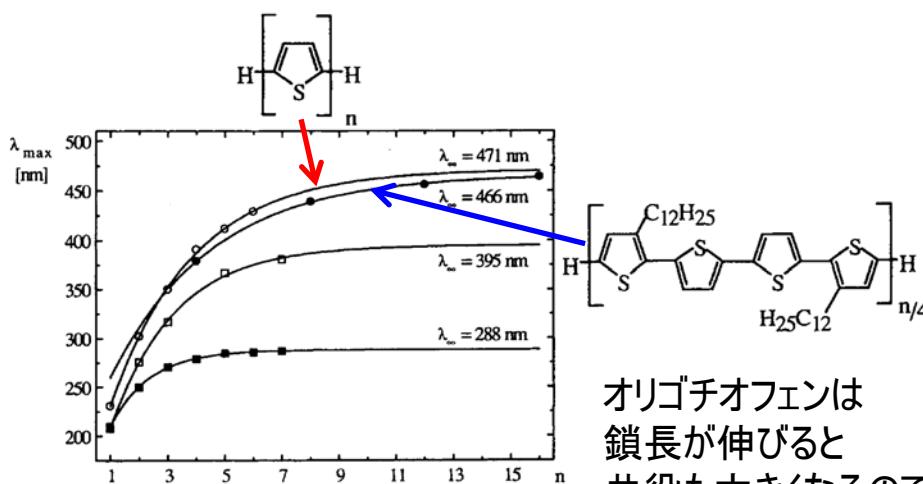
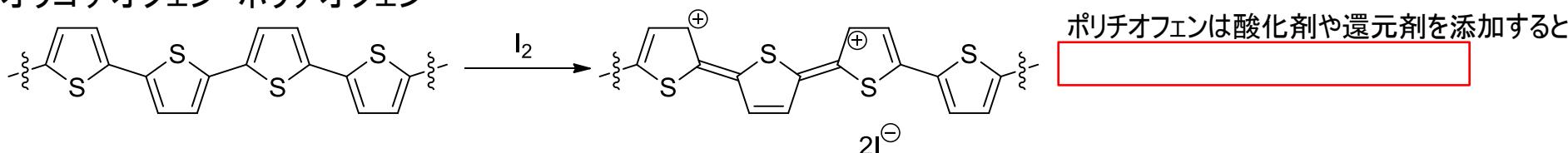
テトラチアフルバレン誘導体: 強力な電子供与体



有機物のみからなる塩で電気伝導性を示す
同種イオンが連なるカラム構造が特徴

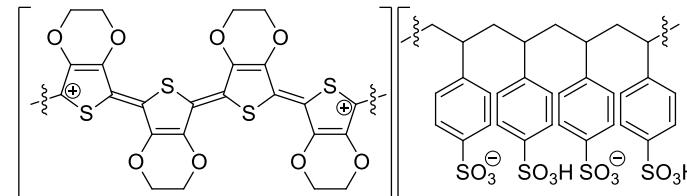
reviews:
Chem. Rev. 2004, 104, 4891.
Chem. Rev. 2004, 104, 5085.

オリゴチオフェン・ポリチオフェン

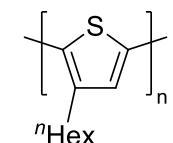


Acta Polymerica 1997, 48, 379.

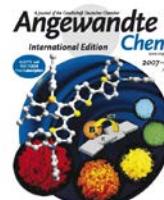
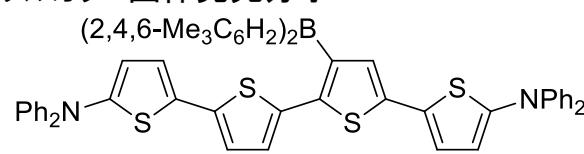
最近の応用例
 PEDOT/PSS : 膜生成が容易な高導電性ポリマー



P3HT : p型半導体ポリマー



フルカラー固体発光分子



Angewandte Chemie International Edition 2007, 46, 4273.



京都大学
若宮淳志教授